

◆第 21 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト予選講評◆

第 21 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテストにたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。今回の応募者数は、第 1 部 78 名、第 2 部 36 組（72 名）、第 3 部 19 名、延べ 169 名となりました。

非常に工夫を重ねた力作が多く、予選は激戦になりました。特に第 1 部では 24 名、第 2 部では 9 組を対象に二次審査を行い、再度採点を行いました。高いレベルでの応募も多く、審査委員一同で頭を悩ませながら選出しています。また、二次予選には惜しくも行かなかったものの、朗読の工夫、演出が凝らされている面白い応募作品もありました。このため、今回本選出場がかなわなかった方もがっかりせず、送付された評価シートを読み、更なるレベルアップを目指してください。なお、残念だったのは、十分に練習せず、（他の人が聞けば）すぐに分かるような明らかな単語の発音の間違いなどが残る録音も一部あったことです。せっかく応募する以上は、モデル音声を聴いて、ドイツ語の発音に慣れてください。テキストをよく理解したうえで何度も音読の練習をして、他の人に聴いてもらうだけで、朗読は格段に良くなるはずです。そして、本選出場者の皆さんは、激戦を勝ち残ったファイナリストとして、油断することなく練習を重ね、磨き上げた成果を本番で見せてください。

<第 1 部（朗読部門）>

今年の朗読課題テキストは、ゲーテの詩 *Das Veilchen*（「すみれ」）です。このゲーテの「すみれ」はモーツァルトをはじめとした、さまざまな作曲家によって曲をつけられ、歌曲としてもよく知られています。野に咲くすみれは、足取り軽く、野原を歩いてきた羊飼いの少女に憧れ、自分を見つけて、そっと抱きしめ、胸にさしてほしいと望みます。しかしすみれの願いはむなしく、少女は気づかずに、すみれは踏みつけられてしまいます。しかし、すみれは少女に踏まれてもなお、喜んで死んでいくのです。野に咲く一輪のすみれのけなげな心情を表現し、聴衆を引き込むように朗読するのは大変だったと思います。

このテキストを朗読する際には、まずはネイティブ・スピーカーによる録音をしっかりと聴いてください。目でテキストを追いつつ、耳を澄まして、単語一つ一つの発音を確認してください。たとえば V と W の違いですが、*Veilchen* の V は [f] と濁らないのに対して、*Weilchen* の W は [v] と濁ります。またよく見られたのが、母音の長短に関する間違いです。たとえば、第 3 節の韻を踏んでいる *kam, nahm* の a はいずれも長母音です。さらに母音についてですが、第 2 節の *nur, Natur* とやはり韻を踏んでいる箇所、*nür, Natür* のように変音させた発音、英語風の発音が目立つ録音も少なからずありましたので、ネイティブの発音をよく聴いて、ドイツ語の発音に慣れましょう。また子音にも注意が必要です。m と n の違い（第 1 節の *Mit leichtem Schritt und munterm Sinn*, の m が n と聞こえる。）や、有声音と無声音の区別です。（*starb, sterb'* の語末 b は [p] と発音し、濁りません。また、語末ではありませんが、*Liebchen* の b は [p]、*Mädchen* の d は [t] と発音します。）

Viertelstündchen, starb, sterb' の st [ʃt] の s は「シュ」という音になる、sang の ng [ŋ] の発音等、子音のつながりにも注意しましょう。このような単純なミスは、音源を繰り返して聴くこと、第三者に聴いてもらうことで、すぐに解決するはずですが。

さらに単語の一つ一つの音と同じくらい重要なのが、意味のかたまりとメロディーです。特に第 3 節では心情豊かに朗読できており、審査をしながら思わず感動してしまいそうになるような録音がある一方、一つ一つの単語ごとに小さな停止（ポーズ）が入り、棒読みに近い単調な朗読も多くありました。ある程度のスピードと流れが存在すれば、一言一句完璧に発音できなくとも、上手く聴衆を引き込むことができるはずですが。特に詩には韻律（リズム）が大切ですので、詩の意味をよく理解したうえで、アクセントにも注意して何度も練習をしてみてください。また、こうしたテキストをあまり単調に語ると、ひたすら暗くなってしまう。羊飼いの少女が足取り軽く登場する場面、少女に出会ったときのすみれの感情の高まり、少女に憧れるすみれの切ない心情や、踏まれてもなお少女を想うすみれのひたむきさなど、それぞれ異なる情景を演じ分けられるようにすると良いでしょう。それぞれの場面によって、勢いや読むスピードが違わずです。なお、本選では言葉以外のコミュニケーションで重要な、視線、表情、（あまり大げさでない）ジェスチャーも審査基準となりますので、本選出場を決めた皆さんは、さらにこうした工夫もしてみてください。残念ながら本選の出場を逃した応募者の皆さんにとっても、ゲーテの「すみれ」を暗唱できるということは誇らしいことですし、今後、ゲーテの詩を披露する機会がどこかであるかもしれません。そのときは自信をもって朗読してください。

<第 2 部（対話部門）>

第 2 部は **Kalter Kaffee**、「冷たい（冷めた）コーヒー」というスキットです。「コーヒーが冷めている」と文句を言う夫に対して、「コーヒーは冷めていない」と主張する妻という、日常生活にありがちなひとこまを切り取ったようなスキットです。ただし、夫と妻は喧嘩をしているわけではなく、お互いの言い分がすれ違い、会話がかみ合わないというところが笑いを誘います。

夫婦のかけ合い（会話のテンポ）がとても大切になってくるのですが、うまく工夫して演じられているペアがいる一方で、残念ながら、テキストの意味を理解しないまま、ただ読み上げているだけのように感じられる応募作もありました。第 1 部のテキストにも言えることですが、ひとつひとつの単語を正確に丁寧に発音することにばかり気をとられていると、どうしても会話の流れが悪くなります。その一方で、テンポよく読もうとするあまり、個々の発音がおろそかになっている録音もありました。具体的には、リーゼロッテの台詞 „Du gibst also zu, ...” の gibst の発音（i は長母音で、b は [p] という音で濁らない。）や、ウムラウトの発音 **höchstens** が特に難しかったようです。also や warm といった英語と同じ綴りの語や、さらには **gestellt** の l の発音を r のように、英語風に発音する応募者もいました。サンプルの音源をよく聴いて、個々の発音を確認しましょう。

本選出場者の皆さんは、こうした注意を踏まえて、意味をよく理解したうえでテキストを台本として暗記し、間の取りかたや会話のテンポに気をつけて、演じ切ってください。

なお演技も大切な要素ですが、ドイツ語そのものをまず大事にし、演技や小道具が過剰にならないようにしてください。本選では、課題テキストにない文言の付加は認められません。また、「間」も重要と書きましたが、あくまで会話を成立させるための自然な間です。演技のために必要以上に長い無言の時間をとることは避けてください。

<第3部（フリースピーチ部門）>

第3部の予選では、ドイツ語ネイティブと日本語ネイティブの審査委員2名がそれぞれ点数評価をしています。評価点は、ドイツ語の正確さ（20点）と論の展開・内容（50点）の2項目（計70点）です。点数評価の後に、2名でコメントを相談して、日本語でコメントを書いています。

今年は、全体のレベルがさらに上がったという印象を受けました。ドイツ語の質も高まって、ドイツ語だけでは意味が取れないという原稿はまったくありませんでした。添削してもらえた人とそうでない人、あるいは添削を受けていても、どの程度まで添削してもらえたかなどの違いがありますので、ドイツ語の採点ではあまり大きく差をつけないように配慮しました。

それだけに、内容面での論理的な話題の展開、オリジナリティの感じられる論などが評価の重要点となりました。導入部を工夫し、本論を体験とデータなどを織り交ぜて展開して結論に至る、という基本的な構成は、すべての論文で出来ていました。その中で高い評価を得たのは、第1には、個人の体験と社会の問題が無理なくつながっているものであり、第2には、一般論に終わらないオリジナリティをもつものでした。今回少々気になったのは、個人的な体験と社会の問題を考えるにあたって、つながりを強引に作ろうとして、論の展開に少々無理があったものが散見されたことです。ていねいな考察が望まれます。

最後になりますが、毎年書いているように、予選では本選出場者の選抜のために、「辛口」の採点になっています。残念ながら今回本戦に出場できなかった皆さんも、自分なりの構成を考え、言葉を選んでドイツ語のまとまった文章を書ききったわけです。とても素晴らしいことです！自信を持ってください。

※第3部の原稿の修正について

例年お願いしておりますように、ドイツ語をチェックしてくださる方は、あくまで文法面での修正にとどめていただき、内容や構成には手を入れないようお願いいたします。あまりにも完璧な表現が、ドイツ語を学ぶ高校生らしさを消しているように感じられることがありました。もちろん、それだけの表現を使いこなせる高校生もいることは事実です。それでも、高校生らしい文体と思想が融合した文章を、私たちは期待しております。

獨協大学外国語学部ドイツ語学科
全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト実行委員会